



## 埼玉県農協農政対策委員会委員長賞

# お米と僕の成長記

坂戸市立入西小学校 六年

田邊 耀仁たなべ あきと

僕は、平成二十二年一月一日生まれの、十一才です。生まれる予定日より二ヶ月も早く生まれました。体重は一九三六グラムで、自分で呼吸できず、ずっと入院をしていましたが、「たくさんの人達のおかげで退院できた。」と母から聞きました。小さく生まれてきたので家族がたくさん心配してくれたそうです。

離乳食が始まり、母は、いろいろ栄養を考えて作ってくれたみたいですが、ぼくは、おかゆが大好きだったようで、おかゆばかりを食べていたそうです。僕と、お米の出会いはこちらから始まりました。

保育園の給食では、ご飯の他にも、おかずがありました。でも、やっぱりご飯が一番好きでした。その理由は、ほんのりした甘みが僕は大好きだったからです。

小学校に入学して一年生の時、かつお節やいろいろな、ふりかけをご飯にかけて食べることに、夢中になりました。ご飯の甘い部分と、ふりかけなどがかかっている部分が、混ざり合って、さらに美味しさが増して、ご飯をいっぱい食べら

れました。この美味しさが忘れられなくて、二年生でも三年生でも、同じようにして、いっぱい食べられました。

四年生では、お米を育てました。田んぼの中に入って、お米の苗を一束ずつ植えていきました。この一束が、茶わん一杯分だと知り「毎日たくさん食べるのに、たくさん植えなければならぬのか。お米作りは大変だな。」と思いました。五〜六カ月して稲刈りをしたお米を給食で食べました。自分達が田植えをして育てたお米の味は、お米になるまで大変な過程があることを学んだので、今まで食べてきたご飯よりも、何倍も何十倍も、ものすごく美味かったです。

五年生では校庭で、あき缶を使ってお米を炊きました。少し、こげた部分はあつたけれど、炊飯器で作る真っ白なお米よりも、やわらかくて甘さも増して、とても美味しかったです。お米の炊き方にもいろいろあって、火や水の加減が関係していることを知りました。

六年生になった、僕の体重は、二十八キログラムになりました。十一年間、僕はお米にたくさん体重を増やしてもらいました。今の僕の、好きな食べ物、塩おにぎりです。中身の具ものりもつけません。これが最高に美味しいです。来年のお正月に僕は、十二才になります。その誕生日にもきつと、大好きなお米を大好きな家族といっしょに食べていると思います。僕のことを成長させてくれた、お米と家族に、これからもずっと感謝しながら食べていきたいと思えます。